

**認定特定非営利活動法人  
オールしずおかベストコミュニティ**

**～ 平成 30 年度活動のご紹介 ～**

I メディアに紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



## 目 次



### I メディアに紹介されたオールしづおかベストコミュニティ

広報実績一覧 1)新聞 オールしづおかベストコミュニティ／みらいと	3
広報実績一覧 2)雑誌 3)テレビ・ラジオ	4
①松坂屋静岡店 販売会 4月 ／ ②アピタ静岡店 販売会 5月	5
③・④浜松南ロータリークラブ(CSR) 遠州灘海岸防潮堤の植樹会	6
⑤・⑥伊東ショッピングプラザデュオ「福祉応援フェア」6月	7
⑦谷島屋 イオンモール浜松志都呂店(CSR)「福祉応援フェア」8月	8
⑧研修情報部会運営自主研修 個別支援計画研修	8
⑨中日本高速道路株式会社 東京支社 浜松保全・サービスセンター(CSR) 交通安全啓発品	9
⑩大和リゾート THE HAMANAKO(CSR) 記念品に地元授産製品	9
⑪ぬくもり工房(CSR) 販売会 10月 ／ ⑫第21回静岡県授産製品コンクール	10
⑬第20回静岡県障害者芸術祭、第21回静岡県授産製品コンクール表彰式	11
⑭ヘルプマーク推進フォーラム	11
⑮研修情報部会運営自主研修 支援力向上研修 ／ ⑯三島信用金庫(CSR) ビジネスマナー研修	12
⑰・⑯掛川信用金庫 下俣支店(CSR) 障害者アート展	13
⑯・⑰中日本高速道路株式会社 東京支社 浜松保全・サービスセンター(CSR) 交通安全啓発品	14
⑯静清信用金庫(CSR) ビジネスマナー研修	14
⑯サントムーン柿田川 販売会 12月 ／ ⑯富士信用金庫 大渕中野支店(CSR) 障害者アート展	15
⑯農福連携しづおか野外マルシェ(ノウフクマルシェ)	15
⑯静岡県遊技業協同組合(CSR) 端玉景品 ／ ⑯サントムーン柿田川「福祉応援フェア」3月	16
⑯静岡県交通安全協会(CSR) 交通安全啓発品	16
⑯中日本高速道路株式会社 東京支社 浜松保全・サービスセンター(CSR) 交通安全啓発品	17
⑯しづおか授産品ブランド JR静岡駅ビルパルシェ販売会 ／ ⑯「とも沼津店」ありがとうフェア	17
⑯静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」開所	18
⑯静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」開所	19
みらいと ⑯この人 静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」JASBC理事長 小出隆司さん(浜松市)	20
⑯「みらいと」クリスマスワークショップ(グランシップ)	20
⑯「みらいと」アールフェスタ静岡(静岡マルイ)	21
⑯「みらいと」障がい者モデルファッショショ(静岡マルイ)	22
⑯-1 静岡ビジネスレポート Company File	23
⑯-2 静岡ビジネスレポート Company File	24
⑯ 静岡ビジネスレポート しづおか授産品ブランド JR静岡駅ビルパルシェ食彩館販売会	25

※記事・画像等は新聞社・テレビ局の許諾を得て、日付順に転載しています。

### II 写真で見るオールしづおかベストコミュニティ

1)第21回 平成30年度静岡県授産製品コンクール、平成30年度 静岡県障害者芸術祭	26
2)こども食堂赤い羽根バースデイ こども食堂誕生日会・授産製品応援事業 ／ 3)新春講演会	27
4)部会活動 研修情報部会による研修会①～⑤	28
5)静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」a.開所式／b.展示会	29
c.支援人材の育成研修／d.ワークショップ	30

## 広報実績 1) 新聞

### ■ オールしづおかベストコミュニティ

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し
①	4/22	静岡新聞		まちトピ 葵区 施設利用者手作り授産品販売
②	5/25	静岡新聞		授産品販売会やものづくり体験 駿河区の商業施設
③	5/28	中日新聞		特別支援学校生ら 防潮堤で植樹活動 西区で浜松南 RC と
④	5/28	静岡新聞	西部版	まちトピ 【西区】浜松南 RC が防潮堤に植樹
⑤	5/31	伊豆新聞		2日に福祉応援フェア デュオ
⑥	6/3	伊豆新聞		作業製品販売し活動紹介 NPO が福祉応援フェア 市内 6 事業所が参加 デュオ
⑦	8/3	静岡新聞	西部版	まちトピ 西区 福祉応援フェアで授産品販売
⑧	8/4	静岡新聞		個別支援計画作り方学ぶ 葵区で研修会 県内福祉事業所職員ら
⑨	9/14	中日新聞		心込めて縫いました 北区の作業所利用者 交通安全タオル作製
⑩	9/28	静岡新聞		授産所製バッグを記念品に 西区のホテルで受け渡し式
⑪	10/2	中日新聞		障害者 手作り製品販売 エプロンなど 浜北区の工房で始まる
一	10/18	朝日新聞		光るアイデア 新製品ずらり 福祉事業所 コンクール
⑫	10/20	静岡新聞		品質やアイデア審査 静岡で県授産製品コンクール
⑬	11/18	静岡新聞		優秀授産製品 5 部門で表彰 静岡、障害者芸術祭
⑭	11/21	伊豆新聞		「ヘルプマーク知って」市町、社協など 30 人参加 県が推進フォーラム 下田
⑮	12/6	静岡新聞		施設職員「メンタル大切」葵区で研修 障害者支援向上へ
⑯	12/6	静岡新聞		まちトピ 【長泉】福祉職員らビジネスマナー学ぶ
⑰	12/7	中日新聞		掛川、通所者らの 80 点並ぶ
⑱	12/7	静岡新聞	西部版	まちトピ 【掛川】特別支援学校と施設が合同展
⑲	12/7	中日新聞		手作り食器置き 交通啓発に 浜松の障害者施設「くるみ」
⑳	12/7	静岡新聞		福祉事業所職員にビジネスマナー 静岡で研修
㉑	12/8	静岡新聞	西部版	まちトピ 【浜北区】手作り交通啓発品を納品
㉒	12/16	静岡新聞	東部版	障害福祉事業所の手作り授産品並ぶ 清水町で販売会
㉓	12/21	静岡新聞		まちトピ 【富士】福祉事業所利用者が各施設 P R
㉔	1/20	静岡新聞		障害者が作った農産物を販売 葵区でマルシェ
㉕	2/22	静岡新聞		障害者支援へ 授産品景品に 県内パチンコ店
㉖	3/10	静岡新聞	東部版	障害福祉事業所 手作り品を販売 清水町で合同フェア
㉗	3/14	静岡新聞	西部版	新入学児交通安全 啓発へ授産品寄贈 安協浜松中央地区支部に
㉘	3/19	静岡新聞	西部版	まちトピ 【浜北区】交通安全啓発タオルを納品
㉙	3/20	静岡新聞		多彩 授産品ブランド 静岡で展示販売会
㉚	3/27	静岡新聞		まちトピ 【沼津】県内福祉事業所の手作り品販売

### ■ 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらいと

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し
㉛	9/20	静岡新聞		障害者芸術支援へ拠点 県、静岡に「みらいと」開設
㉜	9/20	中日新聞		障害者の芸術活動 拠点に 葵区に開所 愛称は「みらいと」
㉝	10/3	静岡新聞		この人 県内初の障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」を運営する NPO 法人理事長 小出隆司さん（浜松市）
㉞	12/21	静岡新聞		まちトピ 【駿河区】グラスデコ使いオーナメント
㉟	2/16	中日新聞		障害者アート自在に表現 葵区・静岡マルイで開幕
㉟	2/20	静岡新聞		観客に応え笑顔でポーズ 葵区 障害者がファッショショード

## 広報実績 2) 雑誌

No	掲載日	雑誌社名	記事見出し
(37)-1		Shizuoka Business Report	Company File
(37)-2	2/20	No.1400	福祉と企業をつなぐ活動に取り組み障がい者の就労や自立を支援
(38)	3/5	Shizuoka Business Report No.1401	オールしづおかベストコミュニティ 授産品ブランド商品の販売会 3月16日～23日にパルシェで開催

## 広報実績 3) テレビ・ラジオ

No	放送日	媒体	社名	内容
1	8/4	ラジオ	SBS RADIO	Radio*East 生出演 サントムーン柿田川夏の販売会 ASBCの活動内容 販売会の主旨 プレゼントなど
2	9/19	テレビ	NHK 静岡	たっぷり静岡 静岡市葵区 アート活動を支援 障害者の拠点オープン
3	10/29	テレビ	第一テレビ	NNN ストレイトニュース 静岡市駿河区 障がい福祉サービス事業所販売会
4	12/26	ラジオ	FM-Hi	ゆうラジ！かこまるマジックアワー水曜気分でショー かこまる◎にじゅうまる
5	1/25	テレビ	NHK 浜松	NHK ニュース 18:10～たっぷり静岡、20:45～ニュース 845 みらーと アールフェスタ浜松
6	2/16	テレビ	NHK 静岡	NHK ニュース 昼・ニュースしづおか 645 障害者が作った商品の販売会 アピタ静岡店（静岡市駿河区）
7	3/16	テレビ	SBS テレビ	SBS イブニングニュース他 9:54、18:50～ 春のしづおか授産品ブランド市
8	3/24	テレビ	SBS テレビ	元気しづおか人 13:54～ 「授産品ブランド市 大切なのは伝えること」



### 葵区 施設利用者手作り授産品販売

県内の障害者福祉事業所で製造された菓子や雑貨などの授産品を販売するマルシェが21日、静岡市葵区の松坂屋静岡店前けやき通りで始まった=写真=。毎月第3土曜・日曜の午前10時から午後4時に定期開催される予定。

初日は、社会福祉法人愛誠会アトリエ・ポルト（同市葵区）の施設利用者が手作りしたクッキーや米粉シフォンケーキなど15品が並んだ。家族連れや若者らが足を止め、試食を楽しみながら買い求めた。

マルシェは障害者福祉事業所の授産品PRや工賃向上を支援するNPO法人オールしづおか

ベストコミュニティ（同）が主催。授産品を陳列する台の製作には、松坂屋静岡店とのクラウドファンディングで得た資金を活用した。

22日は、よしもとファーム（同）がシイタケや新茶などの授産品を販売する。

①（平成30年4月22日・静岡新聞）

授産品販売会やものづくり体験  
骏河区の商業施設  
県内の障害福祉事業所の工賃水準向上を支援する「NPO法人オールしづおかベストコミュニティ」はこのほど授産販売会とともにづくり体験会を、静岡市駿河区のアピタ静岡店で開いた。岡店で開いた。事業所が12事業所を中心に県中部を発展させた。事業所が出店した。事業所の利用者が作ったクッキーやラスクなどの焼き菓子、米粉のシフォンケーキ、裂き織りや藍染めなどの雑貨・小物を販売し



12事業所の授産品が並んだ販売会  
=静岡市駿河区のアピタ静岡店

た。多くの家族連れが試食を楽しんだり、製品を購入したりした。店頭に立つ利用者もいて、直接、来店客と触れ合った。グラスデコやビーズを使った子ども向けのクラフトコーナーも設けられ、子どもが施設職員の指導で工作を楽しんだ。

②（平成30年5月25日・静岡新聞）

植樹作業に取り組む参加者たち＝浜松市西区篠原町で



### 特別支援学校生ら 防潮堤で植樹活動 西区で浜松南RCと

浜松特別支援学校（浜松市南区）の生徒や福祉事業所の利用者らが二十七日、浜松市西区篠原町の防潮堤で、シイやカシといった常緑広葉樹の苗木三百六十四本を植樹した。

障害者の福祉サービス向上を目指す団体「オール静岡ベストコミュニティ」が県から委託を受け、浜松南RC（ロータリークラブ）と協力して行った。

夏を慰める暑さの中、八十人が、のり面の幅約八メートルにわたりて、高さ四十センチほどの苗木を約三十分かけて丁寧に植え付けていった。

浜松南RCの森田英貴さんは「活動を通じて、障害者たちの心が少しでも明るくなってくれたら」と話していた。

（鎌倉優太）

③（平成30年5月28日・中日新聞）

植樹は障害者の就労支援などに取り組むNPO法人オールしづおかベストコミュニティ西部地区センターが、県からの委託でコーディネットした。環境保全活動に当たる北区のNPO法人縄文楽校も協力した。



**西区 浜松南RCが防潮堤に植樹**  
浜松南ロータリークラブ（富田明会長）は27日、県立浜松特別支援学校の生徒や浜松市内の障害福祉事業所の利用者らと一緒に、県と市が

遠州灘沿岸の津波対策で整備している防潮堤への植樹活動を行った=写真=。  
植樹をしたのは西区篠原町の防潮堤の面積約80平方メートル。参加者約90人は等間隔に土を掘り、タブノキ、スダジイなど潮風に強い20種類の広葉樹の苗木計264本を植えた。土の上には湿度を保つなどの目的で枯れ葉やわらをかぶせた。

④（平成30年5月28日・静岡新聞 西部版）

⑤(平成30年5月31日・伊豆新聞)

2日に福祉  
応援フェア

心援フェア	
トコナ	し、作業製品の販売や活動の紹介が行われます。
「北の店入ホール」	講師による東部センター（東京）前（03-3311-9100）。
10時～午後4時、伊東	△酵素オレンジ（アゲハ）、レース・クッキー各種△かめりあ（じい）、たけい粉、こんちやく、麴△土産（園芸、ボーチ、タオル）
市立須美元和田の伊東ショッピングセンター・	△碧の園（脱臭袋、クリルたわし、コースター、掃除ブラシ、ティッシュカバー、ストラップ、ブローチ）△
デコオや「神社心援フェア」を開催する。市内での事業所が参加	おおはら（朝しらう）
タオル、ハンカチ、布巾、バスマット、園芸	も（廻し子布巾、脱臭剤、バッグ、マット）



NPOが横社  
応援フェア 市内6事業所が参加

二三才

「おたくさんある」  
Rに力を込めた。

所が参加 おおはり、喫茶オレンジ、かめりあ、工房うさみ、鶴の園、ワークセンター、やまももの利用者で職員約10人が出た。それぞれの施設で扱う剣しゅうタオル、陶芸作品、マドレーヌ、クッキー、ポーチ、バッグ、アクリルたわし、コースター、ブローチ、布巾などを展示・販売した。

喫茶オレンジは、新作「組みひも付き名刺ケース」を紹介。工房うさみは手作りのバッグやボーチを数多く用意した。職員の一人は「JJCの機会に各施設の職員のことを一人でも多くの人に知つてもらいたい。使ってみれば良さが分かるはず。提携Jファンが多い品

⑥(平成 30 年 6 月 3 日・伊豆新聞)



西区 福祉応援フェアで授産品販売

障害のある人々が通う事業所の授産品を販売する「福祉応援フェア」(障害者働く幸せ創出センター主催)が31日まで、浜松市西区の谷島屋イオンモール浜松志都呂店で開かれている=写真三。

同市内8事業所が、トートバッグやスカーフ、レターセットなど多彩な商品を並べた。ワークショップくるみ（南区）の遠州綿紬ハンカチやブックカバー、多機能事業所だいち（東区）の天竜材を使った箸などこだわりのある品々がそろう。丸林篤史店長は「自信を持って紹介でき

る商品ばかり。地元の事業所に貢献できてうれしい」と話している。

※株式会社 谷島屋様では、地域貢献の思いから福祉事業所製品の周知と販路拡大のため、静岡県内の店舗において定期的に販売会「福祉応援フェア」を当法人が主催し開催していただいております。

⑦(平成30年8月3日・静岡新聞西部版)

個別支援計画作り方学ぶ

障害者の自立支援に取り組むNPO法人オーリルしづおかベストコミュニティは3日、県内の福祉事業所の職員らが対象の研修会を静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センターで開いた。

テーマは、障害者一人一人のニーズに応じた支援を展開するための「個別支援計画」の作り方。NPO法人県障害者ケアマネジメント従事者ネットワークの増井潤理

事が講師を務め、「障害者の成長を促すよう、達成可能な目標を書くことが大切」などとポイントを解説した。



## 個別支援計画の作り方について学ぶ参加者ら = 静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター =

⑧(平成30年8月4日・静岡新聞)

## 心込めて縫いました

北区の作業所利用者 交通安全タオル作製

浜松市北区の障害者就労支援施設「引佐草の根作業所」が、秋の全国交通安全運動（二十一～三十日）期間中のイベントの啓発品として使用するハンドタオルを作製した。利用者や職員が十三日、同市浜北区の中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンターに届けた。

間を取り持った。  
(鎌倉優太)



⑨(平成30年9月14日・中日新聞)

## 授産所製バッグを記念品に 西区のホテルで受け渡し式

小西総支配人にトートバッグを手渡す  
利用者(左)＝浜松市西区



⑩(平成30年9月28日・静岡新聞)

縦、横三十五㌢ほどのハンドタオルで「出世大名家康くん」がデザインされている。オレンジと青色の二種類で百枚ずつ。作業所の利用者六人が、タオルの縁に幅約四㌢の遠州綿細(めんぢ)で縫い付けた。二十二日に新東名上り線浜松サービスエリア内で開くイベントでドライバーらに配る。作業所の西尾佳世さんは「利用者一人一人が心を込めて縫いました。交通安全に少しでも役に立てばうれしい」と話した。センターと作業所は、県の委託を受けたNPO法人オールしづおかベストコミュニティが

浜松市西区のホテル「大和リゾート ザ ハマナコ」が、10月に開催する開業30周年記念イベントの参加記念品に同市の福祉事業所4施設の利用者らが作ったトートバッグを採用し、26日、同ホテルで受け渡し式が行われた。障害者の就労などを支援する認定NPO法人「オールしづおかベストコミュニティ」がコーディネートして実現した。受渡し式で担当したワーキングツップくるみ(南区)の高橋侑希さん(29)は「持ち手を付けるのが難しかったが、頑張れた」と話した。

ミシンでの縫い付けを担当したワーキングツップくるみ(南区)の高橋侑希さん(29)は「持ち手を付けるのが難しかったが、頑張れた」と話した。

浜松市浜北区染地台の「ぬぐもり工房」で一日、市内の障害者施設の利用者が手作りした製品の販売が始まった。二十九日まで（水曜定休）。

区) フリкционショットブロウダ  
(南区) の利用者が、遠州  
綿つむぎを使って出品。エ  
プロン(六千九百五十円)  
や名刺入れ(八百円)、し  
っかりとしたつくりのトラ  
ベルリュック(四千八百  
円)が並ぶ。

障害者手作り製品販売



遠州綿つむぎを使ったエプロンや小物入れ=浜松市浜北区の「ぬくもり工房」で

※有限会社ぬくもり工房様では、地域貢献の思いから福祉事業所製品の周知と販路拡大のため、静岡県内の店舗において定期的に販売会「福祉応援フェア」を当法人が主催し開催していただいております。

⑪(平成30年10月2日・中日新聞)

円と八百円）や、北区にある長坂養蜂場のあめが入つた巾着袋（九百円）といつた小物もあり、総数は四十五品種、約四百点になると一つ。圓ぬくもり工房＝〇五三（545）63911

(富源)

県内の障害者福祉施設などで作られた製品

## 品質やアイデア審査

## 静岡で県授産製品コンクール



障害者福祉施設などで作られた製品を審査した  
「コンクール」=17日、静岡市葵区

を審査する「県授産制度」  
品コンクール」(NP)

ベストコミュニティ主催)が17日、静岡市葵区で開かれた。

果は次の通り（かつこ  
内は施設名）。

【県知事賞】▽食品  
米粉と梅の和パウンド（さがら作業所）▽  
縫製品 ガシリーズ  
バッグ（弓佐草の根作業所）▽陶芸・木製品  
ウクレレUK-10  
（草笛共同作業所）▽  
（じなみ作業場）▽雑貨  
品 十二支の耳かき  
品（はじめの一歩）▽作  
品 たまごカラカラ  
（ラボール・タスカ  
ベンチタイプ）

【特別支援学校部門】  
金賞 ガラスの小皿（県立清水特別支援学校高  
等部）

⑫(平成 30 年 10 月 20 日・静岡新聞)

品コンクールの表彰式とステージパフォーマンスが行われた。コンクールは、県内障害福祉サービス事業所などの優れた授産製品を食品・縫製品・陶芸・木製品・雑貨品、作品の5部門で表彰した。このうち牧之原市のNPO法人こころのさがら作業所は日頃の梅シロップ作りで余つ

優秀授産製品  
5部門で表彰  
静岡、障害者芸術祭

※静岡県授産製品コンクール及び静岡県  
障害者芸術祭は、静岡県より委託を受  
け当法人が運営して開催致しました。



県障害者芸術祭の最後を飾る「県授産製品コンクール」表彰式=17日午前、静岡市葵区のJR静岡駅北口地下広場

た梅の実を米粉に練り込んだ「米粉と梅の和パウンド」で食品部門県知事賞を受賞した。パフォーマンスは見晴学園（三島市）のオリジナルバンド「ばんき玉」のミニコンサートなどが行われた。

通り。  
通賞した事業所は次の  
縫製品 引佐草の根  
作業所（浜松市）▽陶  
芸・木製品 草笛共同  
作業所しづなみ作業場  
(菊川市) ▽雑貨品  
はじめの一歩(富士市)  
▽作品 ラポール・タ  
スカ ベンチタイム  
(静岡市)

⑬(平成30年11月18日・静岡新聞)

援助が必要な人へのフォーラム(県主催)が20日、下田総合庁舎で開かれた。市町・社  
団ヘルプマーク推進

30市町、人参加など  
県が推進フォーラム

「ヘルプマーク知つて」

下册

開始した取り組み。今  
年9月末現在、31道府  
県が導入している。

静岡県は、昨年4月  
1日に「障害を理由と  
する差別の解消の推進  
に関する条例」を施行。

ヘルプマークの普及  
に力を入れる県難病対  
応連絡協議会の鈴木孝  
尚理事長は「外見は健  
常者と変わらず、手帳  
を持っていない難病患者  
も少なくない」とへ  
ルプマークの  
必要性を指摘  
し、「マークを  
付けて優先度  
に座ついて、  
怒られた

ヘルプマーク

会福祉協議会、福祉会体、交通事業者など約30人が出席。県の取り組みや普及状況、ヘルプマーク利用者の声などを聞き、理解を深めた。

ヘルプマークは、東

ヘルプマークのボランティア、チラシとともに、バックやカバンなどに付ける携帯用ヘルプマーク1万個を作製し、今年2月から配布・普及に努めている。10月までに60079個を配

震えが止まらなくなったり、人目に付かないところで家族の迎えをばつと待っていた」と体験を話し「先月、ヘルプマークをもらつたので、これからは病気を隠さず、支援をお願い

※記事にある「ヘルプマーク推進フォーラム」は、静岡県より委託を受け当法人が運営して開催致しました。

(14) (平成 30 年 11 月 21 日・伊豆新聞)

## 施設職員「メンタル大切」

葵区で研修 障害者支援向上へ

障害者の就労支援などに取り組む静岡市のNPO法人オールしづおかベストコミュニティは5日、県内の福祉施設職員らを対象にした研修会を同市葵区の障害者働く幸せ創出センターで開いた。

テーマは施設職員の支援力向上。川崎市のNPO法人サポートひろがりの山田由美子代表が「セルフコーチングのすすめ—ぶれない自分づくり」と題して講演し、施設の職員ら47人が聴講した。

山田さんは「職員の悩みを軽減し、支援力

向上することが障害者の幸せにつながる」と説明。その上で「悩みは付きもの。強いメンタルをつくることが大切」と参加者に呼び

掛けた。職員は自分に質問して自分で前向きな解決に向かう「セルフコーチング」を学ぶグループワークなどに取り組んだ。



山田さん(中央)の指導でグループワークに取り組む参加者=静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター

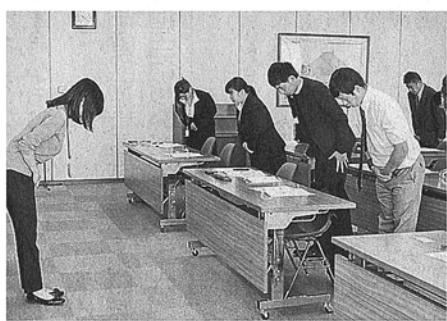
(15) (平成30年12月6日・静岡新聞)

かベストコミュニティ東部地区センター（沼津市）が協力した。

### 長泉 福祉職員らビジネスマナー学ぶ

三島信用金庫は4日、県東部の社会福祉事業所の職員や利用者を対象にしたビジネスマナー研修を長泉町下土狩の本部で開いた=写真=。

同信金ダイバーシティ推進課の職員が新入職



員研修で実際に実行しているプログラムを用いて社会人の基礎を教えた。あいさつ

の発声方法、正しい姿勢の作り方、名刺の受け渡し方などを実演した。お辞儀の仕方の解説では、会釈、普通礼、最敬礼の使い分けを促した。

県東部の8事業所から約20人が参加した。研修は企業の社会貢献活動と障害者福祉を担う事業所のマッチングを行う県の「企業CSR連携促進事業」の一環で、NPO法人オールしづおか

(16) (平成30年12月6日・静岡新聞)

通所者らのアート作品などが並ぶ会場＝掛川市下保の掛川信用金庫下保支店ギャラリーで



掛川市倉真の障害者就労支援事業所「きほくのもり★ペントス」の通所者らのアート作品展が十九日まで、同市下保の掛川信用金

庫下保支店二階ギャラリーで開かれている。ユニークな絵が描かれた空き缶を積み上げたオブジェをはじめ、授産品のティッシュケ

## 掛川、通所者らの80点並ぶ

ースやお守り袋など八十点が並び、来場者の目を楽しませている。

障害者福祉の向上に取り組むNPO法人「オールしづおかベストコミュニティ」の企画。県立掛川特別支援学校高等部の生徒が手掛けた革製品に加えて、茶わんやカップなどの陶芸作品も並んでいる。

NPO法人の河嶋美津夫さん(左)は、「障害のある人たちの発想や色彩感覚は注目を集めている。目にすること機会が少ない授産品も楽しんでほしい」と来場を呼び掛けている。

同支店のギャラリーは、地域の子どもたちや趣味の発表の場として開放している。(圆)同支店＝0537(22)3251(赤野嘉春)

(17) (平成30年12月7日・中日新聞)

### 掛川 特別支援学校と施設が合同展

掛川市の掛川特別支援学校高等部と福祉施設「きほくのもり★ペントス」の合同アート作品



展が19日まで、同市の掛川信用金庫下保支店ギャラリーで開かれている=写真=。

支援学校は陶芸、革工芸、紙工芸、木工の各班が出展した。精巧な模様が刻まれた皮革のキークース、紙細工を施したお年玉袋などデザイン性の高い実用品を並べた。

ペントスは緑色に塗って利用者がイラストを描いた工業用の缶を積み上げ、ツリーに見立て

たオブジェのほか、毛糸細工などクリスマスらしい作品の数々を展示した。

作品展は同金庫とNPO法人オールしづおかベストコミュニティが協力して開催した。

(18) (平成30年12月7日・静岡新聞 西部版)

浜松市南区にある障害者通所施設「ワークショップくるみ」の利用者が手作りした食器置きを、中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンター（浜松市浜北区）が交通安全運動啓発品に採用した。

「年末の交通安全運動」（十五～三十一日）の期間中の十七日、同市東区の東名高速道浜松インターチェンジ入り口でドライバーニに配る。

食器置きは一枚が十枚の正方形で、遠州綿紬（つむぎ）で作られている。利用者が裁断、縫製し、「突然の降雪に備えて冬用タイヤ装着とチェックの携行を」と書いたメ

くるみ」の利用者が手作りした食器置きを、中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンター（浜松市浜北区）が交通安全運動啓発品に採用した。

「ワークショップくるみ」の利用者が手作りした食器置きと共に二百枚を袋詰めした。引き渡し式が六日、同センターであり、施設の代表がセンター職員に手渡した。障害のある人の自立促進を進めるNPO法人オールしづおかベストコミュニティ（静岡市葵区）が仲を取り持った。（宮沢輝明）

## 手作り食器置き 交通啓発に



「ワークショップくるみ」の利用者が手作りした食器置き＝浜松市浜北区で

⑯(平成30年12月7日・中日新聞)

**浜松の障害者施設「くるみ」**

福祉事業所職員にビジネススマナー研修で研修

NPO法人オールしづおかベストコミュニティはこのほど、福祉事業所の職員を対象にしたビジネススマナー研修を静岡市葵区で行った。県中部から17人が参加した。

静清信用金庫の塩沢太朗人材開発課長が講師を務め、身だしなみや言葉遣いなどの指導とともに、相手の気持ちを考え行動するよう呼び掛けた。

近年、障害者の就労支援や授産品の販路拡大、請負作業などの

⑯(平成30年12月7日・静岡新聞)

### 職員らが運転者に配る。

同事業所は知的障害や精神障害のある市内の20～60代の23人が、コースターやハンカチなどの縫製品を作っている。



### 浜北区 手作り交通啓発品を納品

浜松市南区の就労継続支援B型事業所「ワークショップくるみ」は6日、遠州綿紬（つむぎ）で作ったコースター200枚を、浜北区の中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンターに納品した=写真=。

利用者らが同センターを訪れて赤川裕司保全担当課長に手渡した。コースターは縦横10㌢で、NPO法人「オールしづおかベストコミュニティ」（静岡市葵区）が納品に協力した。17日に浜松市東区の東名高速道浜松インターチェンジ入り口で開く交通安全啓発行事で、同センター

⑰(平成30年12月8日・静岡新聞西部版)

NPO法人オールしづおかベストコミュニティは15日、県東部の障害福祉事業所による冬の製品販売会を清水町玉川のサンタムーン柿田川で開いた。7事業所がブースを

障害福祉事業所の手作り授産品並ぶ  
清水町で販売会



手作りの授産品が並んだ製品販売会＝清水町

(22) (平成 30 年 12 月 16 日・静岡新聞 東部版)

設置し、正月飾りやパウンドケーキ、雑貨、アクセサリーなど、手作りの授産品を並べた。職員や利用者が販売にあたり、買い物客に声を掛けた。

販売会は福祉事業所で働く人々の工賃アップと障害に対する理解を深める目的で定期的に行っている。



買い物客でにぎわったマルシェ。施設利用者も売り場に立った＝静岡市葵区

障害者が作った農産物を販売を行つた。工賃向上的取り組みを広く知ってもらおうとして、県が主催した。

就労支援施設を利用する障害者が作った農産物を販売する「ノウフク（農業）マルシェ」が19日、静岡市葵区の青葉ふるさとロードで開かれた。県内の7事業所が出店した。カツマタイコハ、リハビリセンター、なての野菜をはじめ、ジャガイモ、ハゼなどの加工品も並び、大勢の客でにぎわった。

出店した三島市のNPO法人スタジアム田哲史さん(41)は「利用者が一粒ずつ種を植え、手作業で整備して育てた無農薬野菜。安心して食べてもらえるものを作つてほしい」と胸を張った。

障害者の職域拡大や

## 富士 福祉事業所利用者が各施設 PR

富士市の富士信用金庫大渕中野支店で19日、市内の障害者支援施設などの福祉事業所利用者が各施設をPRする活動を行った。

同支店のギャラリースペースでは同日まで、くすの木学園、富士見学園、きぼうの里、夢の杜の4施設の利用者が手掛けた手芸、陶芸作品



各施設のパンフレットを手渡すなどした=写真二。

(23) (平成 30 年 12 月 21 日・静岡新聞)

※富士信用金庫様は当法人の会員で、地域の福祉障がい福祉事業所による「アート作品展」及び最終日に行われた各障がい福祉事業所のPR活動は、「企業CSR連携促進事業」の一環で当法人が企画して主催したもので

(24) (平成 31 年 1 月 20 日・静岡新聞)

※記事にある「ノウフクマルシェ」は、静岡県より委託を受け当法人が運営して開催致しました。

障害者支援へ  
授産品景品に  
障害者支援へ  
県内パチンコ店

障害者福祉施設から購入した授産品を景品にする取り組みが21日、本年度も県内の加盟店275店舗で始まった。9作業所からマスクや割り箸、ミニタオルなど21種類6万500点(550万円相当)を用意した。取り組みは、障害者の自立支援や授産品の自立支援や授産品の



景品用として店内に並ぶ授産品  
=21日午前、静岡市葵区のパチンコ店

販路拡大に貢献するため2000年度にスタート。これまでに総額1億7234万円分を購入したという。

## ㉕ (平成31年2月22日・静岡新聞)

※静岡県遊技業協同組合様では、地域貢献の思いから障がい者の自立支援や福祉事業所製品の周知と販路拡大のため、授産製品を景品にする取り組みを、当法人が仲介し実施いただいております。



利用者が手作りした食品などが並ぶ販売会=清水町

県東部の7障害福祉事業所による授産品販売会「福祉応援フェア」

2019年が9日、水町のサントムーン柿田川で開かれた。手作りのマドレーヌやクッキーなどの食品、マグネット、ウッドプレートなどの木工品を事業所ごとに並べ、販売した。

販売会は障害者福祉を周知し、利用者の工賃アップを目的に定期的に行われています。

(26) (平成31年3月10日・静岡新聞 東部版)

新入学児交通安全啓発へ授産品寄贈  
安協浜松中央地区支部に  
浜松市中区内の福祉事業所の利用者らがこのほど、同区の県交通安全協会浜松中央地区支部を訪れ、製作した授産品を贈った。授産品は4月の「新入学児を交通事故から守る県民運動」に合わせ、同支部管内の新入児童に交通安全の啓発品として配布される。

ネートした認定NPO取り組みをコーディネートした。取り組みは、障害者の自立支援や授産品の自立支援や授産品の

中村嘉宏支部長は「子どもたちには交通安全とともに福祉にも関心をもつてもらいたい」といきつ。交通安全指導員がお礼に反射材を利用者らに贈つた。

## ㉖ 障害福祉事業所手作り品を販売

### 清水町で合同フェア

#### 障害福祉事業所手作り品を販売



中村支部長(右)に授産品を手渡す利用者ら=浜松市中区

(27) (平成31年3月14日・静岡新聞 西部版)

### 浜北区 交通安全啓発タオルを納品

浜松市北区の就労継続支援B型事業所「引佐草の根作業所」は18日、交通安全の啓発品としてタオル200枚を浜北区の中日本高速道路東京支社浜松保全・サービスセンターに納品した。



同事業所の利用者らが同センターで赤川裕司保全担当課長に手渡した=写真=。タオルは縦横35センチ市のキャラクター「出世大名家康くん」の絵柄と遠州綿紬(つむぎ)の帯が入っている。5月の「春の全国交通安全運動」期間中に運転者に配られる。納品はNPO法人「オールしづ

おかベストコミュニティ（静岡市葵区）が協力した。同事業所は市内の10～70代の22人が縫製や自動車部品の組み立てなどに従事している。

(28) (平成31年3月19日・静岡新聞西部版)

県内福祉事業所で障害者が手掛けた授産製品のうち県が特に優れた製品として認定された「しづおか授産品ブランド」の展示販売会が23日まで、JR静岡駅ビルパルシェの食彩館で開かれている。県内18事業所が遠州綿紬のカードケースや

販売促進指導にあたつ施設スタッフ向けにしている。店客に製品をアピール



県内福祉事業所が手掛けた授産品が並ぶ展示販売会=18日、JR静岡駅ビルパルシェの食彩館

(29) (平成31年3月20日・静岡新聞)

### 多彩授産品ブランド

静岡で展示販売会

たフエアトレード製品  
販売「スリーパンズ」

(静岡市)の久保田優  
代表は「丁寧に作り上  
げられた授産品の品質  
に自信を持ち、伝えて  
いくことが大切」と話  
した。  
展示販売会は午前9時  
半～午後9時(最終  
日は午後8時)まで。

無農薬のリーフレタス  
をふんだんに使ったレ  
タスバーガーなどを加工  
した。「自然素材」

採れ野菜「自然素材」  
施設スタッフらが「朝  
ラン」の展示販売会=18日、JR静岡駅ビルパルシェ

が23日まで、JR静岡駅  
ビルパルシェの食彩  
館で開かれている。

綿紬のカードケースや

### 沼津 県内福祉事業所の手作り品販売

県内の福祉事業所の授産品販売会「ありがとうフェア」が26日、沼津市の沼津商連会館内



とも沼津店で始まった=写真=。27日まで、6事業所の利用者による手作り作品を販売する。

クッキーなどの菓子、動物柄の袋やペットボトルカバー、手織りのコースターなど、障害者が手掛けた多彩な商品が並ぶ。同店は静岡市葵区のNPOオールしづおかベストコミュニティが管理し、県東部の事業所が運営している。

(30) (平成31年3月27日・静岡新聞)

※記事にある「しづおか授産品ブランド」は、静岡県より委託を受け当法人が各福祉事業所の意向に則した専門家を派遣し、さらに魅力のある商品を目指して改良を行う個別支援を行いました。また、静岡駅ビルパルシェでの展示販売会は当法人が運営致しました。

■静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

手作りの木製看板が披露された障害者文化芸術活動支援センターの開所式=19日午後、静岡市葵区のみらーと



障害者芸術支援へ拠点

県、静岡に「みらーと」開設

県は19日、障害者文化芸術活動支援センター「みらい」とを静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター内に開所した。障害のある人が気軽に文化芸術活動に参加できる環境を整え、才能の発掘や障害に対する社会の理解促進につなげる。センターの主な機能

は、専門家による相談窓口▽情報の収集と発信▽作品発表の機会創出▽支援人材の育成など。ホームページを開設して展示会や作家の情報を紹介し、県ゆかりの芸術家や音楽家を特別支援学校などに派遣する出前講座も実施する。

続支援B型事業所「作業所せきれい」（浜松市天竜区）が製作した木製看板を川勝平太知事らが除幕。事業を受託したNPO法人オーナーしすおかベストコミニティの小出隆司理事長は「障害のある人やその家族の希望になればいい」と述べた。

統支援B型事業所「作業所せきれい」（浜松市天竜区）が製作した木製看板を川勝平太知事らが除幕。事業を受託したNPO法人オーナーの小出隆司理事長は、「障害のある人やその家族の希望になればいい」と述べた。就労継続支援B型事業所「ラポールみなみ」（静岡市駿河区）の利用者小梁知佳さん（23）

動の支援拠点が設けられて。県によると、現在は社会福祉法人などが施設利用者を個別にサ

員が支援のノウハウを身に付けたり、多くの障害者が芸術に触れたことが可能になると期待する。(政治部・山下奈津美)

は「私は絵を描くのが大好き。皆さん、応援してください」と呼び掛けた。

ポートしているが、規模が小さい事業所では支援が難しいのが実情という。センターを設

③(平成30年9月20日・静岡新聞)

# 障害者の芸術活動拠点に葵区に開所

障害者の文化芸術活動の支援拠点「県障害者文化芸術活動支援センター（愛称・みらい）」が十九日、静岡市葵区農服町一の5階に開所した。

開所式には川勝平太知事ら約六十人が出席。運営を委託されたNPO法人「オールしづおかベストコミュニティ」の小出隆司理事長は「みらいには障害者、その家族の希望がある。芸術文化活動の支援拠点として頑張っていきたい」とあいさつした。

社会福祉法人静岡手をつな



開所式で、センターの看板を除幕する川勝平太知事㊨関係者=静岡市葵区で

## 愛称は「みらい」と

ぐ育成の会・ラボールみなみに在籍し、知的障害のある小梁知佳さん（21）は「絵を描くことが好きです。皆さん応援してください」と述べた。みらいとは、「未来」と「アート」を掛け合わせて名付けられた。コーディネーターを配置して、障害者の芸術活動に関する相談に応じる。ワークショップの開催、福祉事業所への出前講座などを通じて、気軽に文化や芸術に触れられる環境整備や、芸術家の発掘、育成につなげる。開設は平日の午前九時～午後六時。

（圆）みらい=054（25）  
13520（三宅千智）

③（平成30年9月20日・中日新聞）

駿河区 グラスデコ使いオーナメント  
県障害者文化芸術活動支援センター「みらい  
と」はこのほど、静岡市駿河区のグランシップ



海野稚奈実さん＝写真右＝が講師を務めた。海野さんは都内での活動に加え、出身地である同市葵区足久保の就労継続事業所などで創作支援活動を続けている。

⑯ 参加者は、海野さんが用意した多種多様な下

地に色彩豊かなグラスデコを塗り、ツリーやサンタクロース、トナカイなど思い思いの作品を仕上げた。

で開催中の愛護ギャラリー展との連携企画「クリスマスワークショップ」を同所で開いた。

のりが混ざり、シールにもなるユニークな絵の具「グラスデコ」を使ったオリジナルオーナメントを作る教室。グラスデコアーティストの

海野稚奈実さん＝写真右＝が講師を務めた。海野さんは都内での活動に加え、出身地である同市葵区足久保の就労継続事業所などで創作支援活動を続けている。

参加者は、海野さんが用意した多種多様な下  
③(平成30年12月21日・静岡新聞)

「障害者の文化芸術活動に対する支援の現状は、  
個別の事業所で指導を  
することがほとんど。ただ、  
規模が小さいと支援のノ  
ウハウがなく、絵を描いて  
みたいと思う障害者がい  
ても対応が難しい。才能が  
あつても発揮する機会の  
ない人がいるかもしけな

## 県内初の障害者文化芸術活動支援センター「みらいーと」を運営するNPO法人理事長

こいで たかじ さん (浜松市)



# この人

「情報発信や講師の派遣、施設職員に対する研修など、さまざまな角度からサポートを行う。総合的な支援窓口として、誰でも気軽に相談してほしい」  
—障害者が文化芸術活動に参加する意義は。

知的障害者の保護者でつくる県手をつなぐ育成会の会長も務めている。

で、支援活動の裾野を地域に広げていきたい。芸術を通じて障害者のことや広く知つてもらうだけでなく、新たな文化創造のチャンスにしたい」

「『私はこんなことができるんだ』という発見は、本人や家族の生活に希望や豊かさをもたらす。芸術を通じて社会と接点を持つことで、障害者に対する周囲の理解も進む」  
—今後の展望は。

③(平成30年10月3日・静岡新聞)

会場を彩る作品＝静岡市葵区の静岡マリイで



## 障害者アート自在に表現

障害がある人の芸術作品展「みらい」と「アルフェスティ静岡」が十五日、静岡市葵区の静岡マリイ三階で始まった。二十八日まで。入場無料。

県内の福祉事業所や個人で芸術活動に励む障害者の作品五十点余りを展示。フランスのモン・サン・ミッシェルなど海外の建築物をカラフルに表現した絵や、魚をモチーフにしたモビールなど、会場を彩る作品に来場者が見入っていた。

### 葵区・静岡マリイで開幕

作品展は、昨年九月に静岡市葵区に開設した県障害者文化芸術活動支援センター「みらい」とが主催した。みらいとの藤田博史・支援コーディネーターは「独特的の視点で描いた作品がそろつた。『きれい』『かわいい』などの感性を共感し合えるのが芸術の良いところだ」と話した。

十六日午後三時半、東京工芸大学教授でグラフィックデザイナー福島治さんによる「障害者アートの魅力と可能性」と題したトークイベント（参加無料）が会場である。（三宅千智）

(35) (平成31年2月16日・中日新聞)



笑顔で会場を歩くモデル＝静岡市葵区の静岡マリイ

## 観客に応え笑顔でポーズ

### 葵区障害者がファッションショー

島田市のウォーキング教室「LB-MODEL SCHOOL」でレッスンを受ける障害者らによるファッションショーが17日、静岡市葵区の静岡マリイで開かれた。同教室の障害者クラスや一般クラスに通う生徒ら13人が登場した。モデルは静岡市の洋品店が提供した遠州織物を使った洋服を身にまとい、軽快なステップを披露。観客の手拍子に合わせ手を振ったりしながら笑顔で会場を歩いた。静岡デザイン専門学校の学生がモデルにメイクを施し、花を添えた。モデルは静岡市中度の知的障害の泉健斗さん(18)は飲食店で働きながらプロのモデルを目指す。ショーモデルを終えた泉さんは「お客様さんがたくさんいて距離も近く緊張したが楽しかった」と笑顔で感想を話した。

(36) (平成31年2月20日・静岡新聞)

※記事にある「障がい者モデルファッションショー」は、当法人が企画して主催したものです。

## ■雑誌

## 認定NPO法人 オールしづおかベストコミュニティ



鈴木良夫専務理事・事務局長

『障害のある人たちのはたらく笑顔で、福祉と企業、地域の心をつなぎます』という理念のもと、障がい者の就労及び工賃向上を支援するための事業に取り組んでいる認定NPO法人オールしづおかベストコミュニティ。障がい者が社会に出て働くためのさまざまな活動をしている。その最終目標は、障がい者の自立を支援することだ。今回は、同NPO法人の取り組みと、障がい者の就労について鈴木良夫専務理事に話を聞いた。

**Company  
File** カンパニーファイル

# 福祉と企業をつなぐ活動に取り組み 障がい者の就労や自立を支援

障がい者の就労を支援する  
認定NPO法人  
組織の概要を教えてください。

鈴木 2010年3月に設立した障がい者支援に取り組む認定NPO法人です。主な業務は、障がい者の就

労と工賃向上の支援、障がいを持つ人の文化芸術活動を応援する「みらーと事業」の三つです。

私たちの使命は、「福祉と企業をつなぐ役割を果たすこと」です。障がいを持つ人たちが社会に出て、働くための間接支援を行っています。事務所は、静岡県から委託を受けて運営している「障害者働く幸せ創出センター」内にあります。センターでは、障がい者を雇用したい、福祉事業所と取引がしたい、障害のある人たちに関するCSR(企業の社会的責任)を実践したいなど、障がい者の働くことに関する相談にワンストップで対応できる体制を整えています。またフロア内

に会議・研修室や授産製品の展示コーナー、交流・イベントスペース、ミニ図書館を設けており、情報収集や情報発信のお手伝いもしています。

障がい者が得意とする「苦手」とすることへの理解――障がい者を雇用する上で、企業側に求められることは?

鈴木 まずは障がい者のことを理解してもらうことが大切だと考えています。障がいには、身体障がい、知的障がい、精神障がいという三つがあります。障がいには、身体障がい、知的障がい、精神障がいといふ三つがありますが、それぞれに得意とする「苦手」とすることがあります。

身体障がい者は文字通り、身体に障害を抱えている人たちです。手足などが不自由であるものの、健常者と同じように会話をし、意志の疎通をはかることができます。

知的障がい者は生まれつき脳に障がいを持つ人です。IQ(知能指数)

が一定基準を下回っている人が知的

障がい者として認定されており、一般

的には二十歳で小学5年生くらいの

知能を持っていますと言われています。

例えば、健常者が5分で理解できる

話を彼らに理解してもらうには約10

倍、50分の時間がかかります。ただし、一度理解したことはしっかりと記憶し、没頭できるので、単純な反復作業

を得意にしています。

現代社会において増加しているのが精神障がい者です。もともと普通

に生活をし、働いていた人たちが、人

間関係や仕事のストレスなどが原因

でうつ病、統合失調症など心の病を

患う精神障がい者となります。社

会に出ていたので平均的なIQを備

えていましたが、他人とコミュニケーションを取ることを苦手にしている

人が多いのが特徴です。

静岡労働局(平成29年)の調査によると静岡県内では約1万1000人

### 概要

- 所在地／静岡市葵区呉服町2-1-5  
5鳳来館(ごふくかん)4階  
TEL.054-251-3515  
FAX.054-251-3516
- 理事長／小出隆司
- 設立／2010年3月
- 事業内容／障がい者の工賃向上・就労支援
- URL／<http://www.all-shizuoka.or.jp>



農福連携しづおか野外マルシェ

の障がい者が就労しています。その内訳は、身体障がい者が約6,900人、人知的障がい者が約3,100人、精神障がい者が約950人となっています。また、雇用者数の伸び率(前年比)をみると、身体障がい者3.8%、知的障がい者5.1%、精神障がい者の雇用が増加傾向にあることがうかがえます。

**鈴木** ひとことで言えば、自分の居場所がある、という安心感や、会社や社会の役に立っている、という達成感を得られる環境を、会社や一緒に働くみなさんでつくることです。

先ほど知的障がい者は覚えることに時間がかかるとお話ししましたが、より理解度を高めるために文字ではなく、絵やイラストを使った業務マニュアルをつくるという方法があります。障がい者雇用が進んでいる会社では、一人一人の適正に合わせて内容がことなるマニュアルをつくっています。また、例えば、机の上を整頓しましよう、という話を伝える時には、「机をきれいににする」というのは、汚れをふき取ることだよ。机の上有るものをまつすぐ整えることだよ」と具体的な指示をすることで理解度は高まります。

対人関係を苦手とする精神障がい者の場合は、彼らを理解する身近な同僚、身近な上司がいて、なおかつ経営者が障がい者雇用を重視しがつ社員を大切にしているという組織風土を持つていることが必要です。もともとIQが高いので、例えばパソコンを使って書類をつくる仕事をま

障がい者雇用に必要なこと

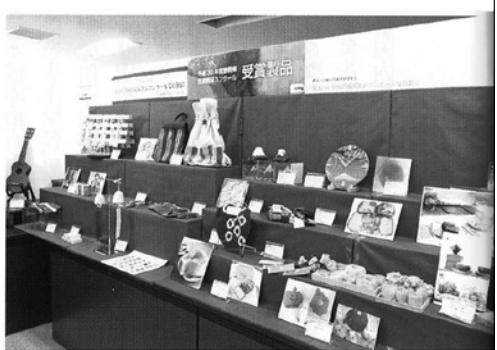
最終目的は障がい者の自立

企業が障がい者を受け入れるには、具体的にどのような環境を整えれば良いのですか?

かせるなど一人で作業に集中できる環境を整えることも一つの手段です。現代の医学では、精神障がいの症状を薬で改善(コントロール)できるということも知つておいていただきたいと思います。

また、ぜひ皆さんに伝えておきたいことがあります。障がい者が自立した生活を送ることができるように金の話をします。障がい者の就職先は、大きく分けると就労支援事業所か一般企業です。就労支援事業所は、一般企業への就職を目指すA型、就労継続支援B型があり、B型の工賃(給料)は月1万5,675円となっています。障がい者は、三十歳になると国から障害年金を受け取ることができますが、平均額は6万5,000円です。障がい者が自立した生活を送るために月10万円が必要だと言われておりますが、工賃と障害年金を合わせても2万円足りません。B型就労支援事業所は、月々の粗利益を分配している仕組みをとっているため、何よりも売り上げを伸ばすことが必要です。われわれも商品の品質や付加価値を高める提案をしたり、イベントを開催したりして販売力を高めるお手伝いをしています。企業の皆さまにおいては、福祉事業所の製品を積極的に購入する下請け仕事を発注するなど、お力添えいただきたく存じます。

また、その一方で、一般企業に就職す



福祉事業所の商品

**オールしづおかベストコミュニティ**

**授産ブランド商品の販売会**  
**3月16日～23日にパルシェで開催**

認定NPO法人オールしづおかベストコミュニティ（静岡市葵区呉服町2-1-5、5風来（ごふく）館4階、小出隆司理事長）は3月16日～23日、

会を行う。

静岡県では、授産品の中でも特に優れた商品を『しづおか授産品ブランド』に認定している。現在、24商品が認定を受けており、今回はできたてパンや焼き菓子、自然素材の加工品、こだわりの雑貨を販売する。

障がい者の賃金向上・就労を支援

するオールしづおかベストコミュニティは、しづおか授産品ブランド対象事業所の職員に対し、販売促進研修を実施。陳列方法や接客技術をレクチャーした。今回の販売会は「販売促進研修の成果を披露する場になっている」という。

- 問い合わせ、054-251-3515

## 1) 第21回 平成30年度静岡県授産製品コンクール（赤い羽根共同募金助成事業）



▲開会式

授産製品の品質向上と一般の方々への周知を目的として、毎年開催しているコンクールです。本年度は、「静岡県共同募金会長賞」を新たに設け、各部門の専門審査員と一般の市民から選ばれた市民審査員が、出展された授産製品を審査しました。昨年度に引き続き、特別支援学校の生徒が製作した作品3点と、事業所製品1点を人気投票で決定いたしました。出展福祉事業所数52、出品点数87点。特別支援学校18校、出品点数34点。(障害者働く幸せ創出センター・平成30年10月17日)



▲審査会

### ・平成30年度 静岡県障害者芸術祭（表彰式・受賞作品展示）



▲表彰式 授産製品コンクール 静岡県知事賞受賞者

「第20回 静岡県障害者芸術祭～笑おう！歌おう！HAPPYになろう！～」において、授産製品コンクールの表彰式が行われ、駅を利用する人々に授産製品をPRしました。会場には、平成30年度の授産製品コンクール受賞製品が展示され、午後のステージでは、県内の障がいのある仲間たちのグループや大道芸人がパフォーマンスを披露しました。(JR静岡駅北口地下広場・平成30年11月17日)



▲午後のステージ げんきだま「歌と演奏パフォーマンス」

### ・静岡県授産製品コンクール受賞作品展示



静岡伊勢丹様では、企業理念に基づき地域の人々との触れ合いを大切に地域に根ざした社会貢献活動を行っています。一昨年から3年目になる本年度も、8階催事場において、県内の障害福祉サービス事業所等で製作された授産製品を表彰する「平成30年度静岡県授産製品コンクール」の受賞製品を、展示していただきました。多くの市民の皆様へPRを行なつていただきました。

(静岡伊勢丹・平成30年12月27日～31日)

## 2) “こども食堂赤い羽根バースディ” こども食堂誕生日会・授産製品応援事業



▲こども食堂「さわだ食堂」  
ケーキ提供事業所：ラポール・タスカ ベンチタイム  
(静岡市葵区・平成30年10月20日)

赤い羽根「共同募金」助成事業である「こども食堂誕生日会・授産製品応援事業」は、就労継続支援事業所等の製品を「こども食堂」のお誕生日会にプレゼントするものです。こども食堂にとっては、こども達がみんなと喜びを分かち合う機会をつくり、障がいのある方への理解を深め、福祉事業にとっては、工賃向上と地域との連携ができるという双方が、うれしい事業です。平成30年度は、10月～3月の半年間で静岡県下35箇所のこども食堂へ9箇所の障害福祉サービス事業所において製造されたケーキ・焼菓子をお届けしました。



▲こども食堂赤い羽根バースディロゴマーク

## 3) 新春講演会



▲森越まや氏



▲川畠善博氏

### 精神科の診療室、就労の現場から見えてきた 「働くということ」

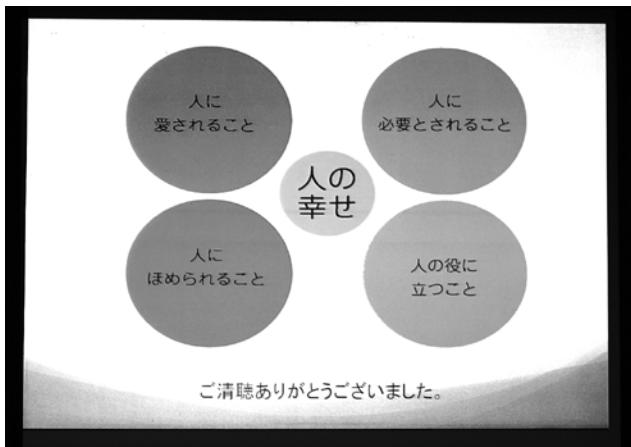
株式会社ラグーナ出版

代表取締役会長・ラグーナ診療所院長 森越まや氏  
代表取締役社長 川畠善博氏

株式会社ラグーナ出版は鹿児島市にあり、精神障がい者に働く喜び、働くしあわせの場をつくりたいと、病院で治療にあたっていた森越医師と川畠精神保健福祉士があえて病院を退職し設立した会社です。

講演は、精神科医である森越会長は医師としての観点から、川畠社長は福祉士として、また経営者としての立場から、精神障害者が働くということを具体的にわかりやすく講義していただきました。

(グランシップ・平成31年1月17日)



▲ご講演スライド



▲会場外のロビーでの「とも静岡店」授産製品販売会

#### 4) 部会活動 研修情報部会による研修会

オールしづおかの会員で作る部会では定期的な意見交換を行ったり、自主研修を開催するなどして研鑽を高めます。



①個別支援計画研修

～質の高い支援を行うために～

講師：NPO法人障害者ケアマネジメント従事者ネットワーク 増井潤 氏  
(障害者働く幸せ創出センター・平成30年8月3日)



②先進事業所に学ぶ 事業所運営力と工賃向上研修

～御殿場リーフレタス vs みしまうなぎやさい～

講師：社会福祉法人ステップ・ワン ステップ・ワン 深澤恒太 氏  
特定非営利活動法人にじのかけ橋 アルシオン 鈴木涼太 氏  
(障害者働く幸せ創出センター・平成30年9月21日)



③事業所運営力向上のための助成金研修

講師：山下祐司社会保険労務士事務所 山下祐司 氏

(障害者働く幸せ創出センター・平成30年11月28日)



④支援力向上研修

～セルフコーチング ～ぶれない自分づくり～

講師：特定非営利活動法人サポートひろがり 山田由美子 氏  
(障害者働く幸せ創出センター・平成30年12月5日)



⑤-1 【視察】障がい者雇用先進企業に学ぶ

～成長支援とは～

講師：日本理化学工業株式会社 大山隆久 氏  
(日本理化学工業株式会社 川崎工場・平成31年2月22日)



⑤-2 【視察】日本理化学工業株式会社 工場見学

## 5) 静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

障害のある人の文化芸術活動を支援するため設置され、文化芸術活動に取り組む障害のある人やその家族及び支援者、障害者施設や障害福祉サービス事業所等、文化施設等を支援し、障害のある人の文化芸術活動を振興します。また、障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と障害や障害のある人に対する県民理解の推進を図ります。

### a. 開所式



静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」開所式

主催者：静岡県知事 川勝平太 氏  
 来賓：静岡県議会副議長 落合慎悟 氏  
 静岡県文化協会会长 鈴木壽美子 氏  
 受託者代表：NPO法人オールしづおかベストコミュニティ 理事長 小出隆司  
 (障害者働く幸せ創出センター・平成 30 年 9 月 19 日)



アート活動のデモンストレーション

社会福祉法人静岡手をつなぐ育成の会「ラポールみなみ」の皆さん

### b. 展示会



①みらーとアールフェスタ浜松  
 (浜松遠鉄 any・平成 31 年 1 月 25 日～31 日)



②みらーとアールフェスタ沼津  
 (沼津 イーラ de・平成 31 年 2 月 8 日～14 日)



③みらーとアールフェスタ静岡  
 (静岡マルイ 3F・平成 31 年 2 月 15 日～28 日)

c. 支援人材の育成研修



①スマホで撮影 基本のテクニック  
講師：新潟県アート・プリユット・サポート・センター、NASCアートディレクター 角地智史 氏  
(障害者働く幸せ創出センター・H31年1月16日)



③【トークイベント】障害者アートの魅力と可能性  
講師：東京工芸大学・株式会社フクフク・プラス 福島治氏  
(静岡マリイ3階展示会場・H31年2月16日)



②アート活動のための著作権入門  
講師：弁護士・弁理士 坂野史子 氏  
(障害者働く幸せ創出センター・H31年2月5日)



④【視察】先進支援事例の見学会  
studio COOCA (スタジオ・クーカ)  
(神奈川県平塚市 studio COOCA・H31年3月20日)

d. ワークショップ



①【ワークショップ】遠州織物でハンカチを作ろう  
【ワークショップ】シルクスクリーンプリントにチャレンジ ※上部写真  
講師：アウラソウイングスクール 戸澤智也子 氏  
BOB ho-ho ウエダトモミ、ホシノマサハル 氏  
(浜松市鴨江アートセンター・H30年10月26～27日)



②【ワークショップ】パステルアートワークショップ  
講師：イラストレーター 松尾雪音 氏  
(沼津市プラザヴェルデ・H30年11月2日～3日)



③【ワークショップ】グラスデコでXmasオーナメントづくりを楽しもう♪  
講師：グラスデコアーティスト うんのちなみみ 氏  
(グランシップ6F 愛護ギャラリー展示会場内・H30年12月15日)



④【ワークショップ】グラスデコ交流会 ～色彩の癒し～  
講師：グラスデコアーティスト うんのちなみみ 氏  
(静岡マリイ3階展示会場・H31年2月23日)

## 福祉のお店

静岡県下の障害福祉サービス事業所の製品を販売しています

### とも静岡店



静岡市葵区駿府町 1-70

静岡県総合社会福祉会館 シズウェル 1 階

9:30 ~ 16:30

日・祝休

TEL : 054-251-8123

### とも沼津店



沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会館 1 階

9:00 ~ 16:00 (平日)

9:00 ~ 14:00 (土曜)

日・祝休

TEL : 055-963-9100

### テルベ



静岡市駿河区曲金 3-1-5 イトーヨーカドー静岡店

1 階 ツインメッセ側エレベーター前

10:00 ~ 20:00

年中無休

TEL : 050-1224-7044

## 静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」

### みらいと事務局

静岡県障害者  
文化芸術活動  
支援センター  
**みらいと**

相談受付：平日 10:00 ~ 17:00

静岡市葵区呉服町 2-1-5

「5 風来館」4 階

9:00 ~ 18:00

土日・祝休

TEL : 054-251-3520

FAX : 054-251-3516



HP : <https://www.mirart-shizuoka.com/>  
mail : info@mirart-shizuoka.com

### みらいと東部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00 ~ 16:00

沼津市大手町 1-1-3 沼津商連会館 1 階

とも沼津店

TEL & FAX : 055-963-9100

### みらいと西部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00 ~ 16:00

浜松市中区中央 1-12-1

静岡県浜松総合庁舎 10 階

障害者働く幸せ創出センター西部拠点

TEL & FAX : 053-458-7600



## 障害者働く幸せ創出センター



静岡市葵区呉服町 2-1-5

「5 風来館」4 階

9:00 ~ 18:00

(第 4 日曜日は開館)

土日・祝休

TEL : 054-251-3515

障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、図書コーナー、授産製品の展示等の PR など様々な活動を行っています。どなた様もお気軽にお越しください。

## こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに、障がいのある人の作った雑貨を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ 授産製品の販路拡大のアイデアがほしい etc.



## フレッシュな情報を発信中！

ホームページ オールしずおかベストコミュニティ

<http://www.all-shizuoka.or.jp/>

オールしずおかの活動がよくわかるサイトです。

Facebook ページ オールしずおかベストコミュニティ

<https://www.facebook.com/allshizuoka>

しづおか授産品 WEB カタログ

<http://s-seihin.jp/>

静岡県内の福祉事業所で作られている授産製品を閲覧できるサイトです。アイテムや地域などによる絞り込み機能や検索機能も充実。

認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

事務局

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail [info@all-shizuoka.or.jp](mailto:info@all-shizuoka.or.jp)

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

